

# 富山大学大学院総合医薬学研究科規則

令和4年3月31日制定

令和4年9月28日改正

令和5年3月22日改正

令和6年3月27日改正

## (趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人富山大学大学院学則（以下「大学院学則」という。）第55条の規定に基づき、富山大学大学院総合医薬学研究科（以下「本研究科」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

## (教育研究上の目的)

第2条 本研究科は、医学、薬学及び看護学を総合した特色ある教育と研究を礎とし、幅広い知識を基盤とする高い専門性と人間尊重の精神を基本とする豊かな創造力を培い、学術研究の進歩や社会に積極的に貢献できる総合的な判断力を有する高度医療専門職業人又は教育研究者としての人材を育成することを目的とする。

2 次条第1項に掲げるプログラムの人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、別表第1のとおりとする。

## (プログラム)

第3条 本研究科総合医薬学専攻（以下「本専攻」という。）に、次の各号に掲げるプログラムを置く。

- (1) 先端医科学プログラム（修士課程）
- (2) 看護科学プログラム（博士前期課程、博士後期課程）
- (3) 先端薬科学プログラム（博士前期課程、博士後期課程）
- (4) 生命・臨床医学プログラム（一貫制博士課程）
- (5) 臨床薬学プログラム（一貫制博士課程）

2 学生は、前条に掲げるプログラムのうち、いずれか一つを専攻するものとする。

## (教員組織)

第4条 本専攻に別表第2に掲げる教員組織を置く。

## (授業科目及び単位数)

第5条 本研究科の教育課程は、本研究科が開設する授業科目（研究科共通科目及びプログラム専門科目をいう。以下「授業科目」という。）及び大学院共通科目（富山大学大学院共通科目履修規則第3条第1項に規定する授業科目をいう。以下同じ。）により編成する。

2 授業科目及び単位数は、別表第3-1及び3-2のとおりとする。

3 大学院共通科目については、富山大学大学院共通科目履修規則の定めるところによる。

4 授業時間は、毎タームの始めにこれを定める。

5 授業科目の1単位当りの授業時間は、次の基準による。

(1) 講義は及び演習、15時間から30時間までの範囲の授業をもって1単位とする。

(2) 実験、実習及び実技は、30時間から45時間までの範囲の授業をもって1単位とする。

## (指導教員)

第6条 富山大学大学院総合医薬学研究科長（以下「研究科長」という。）は、学生の授業科目の履修、研究等を指導するために、研究科委員会（以下「委員会」という。）の意見を聴いて、学生ごとに主指導教員及び副指導教員をそれぞれ定める。

2 主指導教員及び副指導教員となることができる者については、別に定める。

## (履修方法)

第7条 学生は、毎年度の始めの所定の期日までに履修しようとする授業科目を届け出なければならない。

2 学生は、特別の理由があるときは、第2ターム、第3ターム及び第4タームの初頭に、当該タームに履修しようとする授業科目を変更することができる。

(長期にわたる教育課程の履修)

第8条 研究科長は、大学院学則第25条に定める長期にわたる教育課程の履修については、本研究科に入学する予定である者又は学生からの申請に基づき、委員会の意見を聴いてこれを認めることができる。

(他の研究科等又は学部の授業科目の履修等)

第9条 学生は、所定の手続により履修の許可を得た場合は、他の研究科及び学環の授業科目を履修することができる。

- 2 前項の規定により修得した単位の取扱いについては、別に定める。
- 3 学生は、所定の手続により履修の許可を得た場合は、学部の授業科目を履修することができる。ただし、この場合において修得した単位は、第16条に規定する修了に必要な単位に算入しない。

(他の大学の大学院における授業科目の履修等)

第10条 研究科長は、教育上有益と認めるときは、委員会の意見を聴いて、学生が他の大学の大学院（外国を含む。）の授業科目を履修することを認めることができるものとする。

- 2 前項の規定により履修した授業科目の修得については、委員会において審査の上、本研究科において修得した授業科目の単位とみなすことができる。

(他の大学の大学院等における研究指導)

第11条 研究科長は、教育上有益と認めるときは、委員会の意見を聴いて、学生が他の大学の大学院又は研究所等（外国を含む。）において必要な研究指導を受けることを、富山大学学生交流規則第14条に規定する期間内に限り認めることができるものとする。

- 2 前項に定めるほか、研究科長が教育上有益と認めるときは、委員会の意見を聴いて、学生が富山大学における連携大学院教育の実施に関する規則第2条第1項に基づく連携大学院教育により研究指導を受けることを認めることができるものとする。
- 3 前2項の規定により受けた研究指導は、委員会において審査の上、研究科において受けた研究指導とみなすことができるものとする。

(単位の認定)

第12条 学生が履修した授業科目の単位の認定は、筆記又は口頭の試験、研究報告等により、授業科目を担当する教員が行う。

- 2 前項の認定を行う時期は、各タームの末とする。ただし、特別の理由があるときは、その時期を変更することができる。

(成績評価)

第13条 授業科目の成績評価は、秀、優、良、可及び不可の評語をもって表し、秀、優、良及び可を合格とし、不可を不合格とする。

- 2 成績の評語は、100点を満点とし、次のとおりとする。

秀 90点以上

優 80点以上 90点未満

良 70点以上 80点未満

可 60点以上 70点未満

不可 60点未満

- 3 第1項の規定にかかわらず、授業科目によっては、秀、優、良、可及び不可の評語によらずに、認、合格及び不合格の評語を用いることができる。

(学位論文の審査申請)

第14条 学生は、あらかじめ指定する期日までに、主指導教員の承認を得て、学位論文（大学院学則第37条第1項に規定する特定の課題についての研究の成果を含む。以下同じ。）の審査申請を行わなければならない。

- 2 学位論文の審査申請に関し必要な事項は、別に定める。

(学位論文の審査及び最終試験)

第15条 学位論文の審査及び最終試験は、研究科長が委員会の意見を聴いて選出する教員3人以上の審査

委員によって行うものとする。

- 2 最終試験は、学位論文を中心とした関連する分野について、口述又は筆記により行う。
- 3 研究科長は、第1項に規定する審査委員の報告に基づき、論文審査及び最終試験の可否を委員会に諮るものとする。

(課程の修了要件)

- 第16条 修士課程及び博士前期課程の修了要件は、この課程に2年以上在学し、別表第4-1から別表第4-3に掲げる所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、この課程に1年以上在学すれば足りるものとする。
- 2 大学院学則第25条の規定により長期にわたる課程の履修を認められた者の修士課程又は博士前期課程の修了要件は、当該履修期間を在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び試験に合格することとする。
  - 3 前2項の場合において、研究科において適当と認められるときは、特定の課題についての研究の成果の審査をもって修士論文の審査に代えることができる。
  - 4 修士課程又は博士前期課程入学前に研究科及び他の大学院において修得した単位(学校教育法第102条第1項の規定により入学資格を有した後、修得したものに限り。)を研究科において修得したものとみなす場合であって、当該単位の修得により修士課程又は博士前期課程の教育課程の一部を履修したと認めるときは、当該単位数、その修得に要した期間その他を勘案して、1年を超えない範囲で研究科が定める期間在学したとみなすことができる。ただし、修士課程又は博士前期課程に少なくとも1年以上在学するものとする。
  - 5 博士後期課程の修了要件は、この課程に3年以上在学し、別表第4-4又は別表第4-5に掲げる所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、この課程に2年以上在学すれば足りるものとする。
  - 6 一貫制博士課程の修了要件は、この課程に4年以上在学し、別表第4-6又は別表第4-7に掲げる所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、この課程に3年以上在学すれば足りるものとする。
  - 7 一貫制博士課程又は博士後期課程入学前に研究科及び他の大学院において修得した単位(学校教育法第102条第1項の規定により入学資格を有した後、修得したものに限り。)を研究科において修得したものとみなす場合であって、当該単位の修得により一貫制博士課程又は博士後期課程の教育課程の一部を履修したと認めるときは、当該単位数、その修得に要した期間その他を勘案して、1年を超えない範囲で研究科が定める期間在学したとみなすことができる。
  - 8 大学院学則第25条の規定により長期にわたる課程の履修を認められた者の一貫制博士課程及び博士後期課程の修了要件は、当該履修期間を在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び試験に合格することとする。
  - 9 一貫制博士課程生命・臨床医学プログラムにおける次世代のがんプロフェッショナル養成プラン「がん患者チーム医療修得コース」及び「腫瘍循環器学コース」の修了要件は、別表第4-8に掲げる所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格することとする。
  - 10 一貫制博士課程臨床薬学プログラムにおける次世代のがんプロフェッショナル養成プラン「がん治療において地域医療に貢献できる薬剤師および新規がん治療薬開発研究者養成コース」の修了要件は、別表第4-9に掲げる所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格することとする。

(外国の大学との国際共同教育プログラムに基づく履修等)

- 第17条 研究科長は教育上有益と認めるときは、外国の大学院との協定に基づき、一貫制博士課程及び博士後期課程の学生に対し、当該外国の大学院と共同で研究指導を行う教育プログラムを実施することができる。
- 2 前項において、外国の大学院との国際共同教育プログラムによる共同の研究指導を受ける学生の授業科目、単位数、指導教員、履修方法、研究指導方法、単位の認定、成績の評価、学位論文審査、修了要件等については、委員会の意見を聴いて別に定めるものとする。

(再入学及び転入学の場合の取扱い)

第18条 研究科長は、大学院学則第21条の規定により入学した者が既に修得した授業科目、単位及び在学年数の取扱いについては、委員会に意見を聴いて決定するものとする。

(転プログラム)

第19条 研究科長は、本専攻の他のプログラムに転ずることを願い出た者があるときは、委員会の意見を聴いて、許可することができる。

(その他)

第20条 この規則に定めるもののほか、履修等に関し必要な事項は、委員会の意見を聴いて研究科長が定めるものとする。

附 則

この規則は、令和4年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和4年10月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和5年4月1日から施行する。ただし、改正後の別表第2は、令和5年3月1日から適用する。

附 則

1 この規則は、令和6年4月1日から施行する。

2 令和6年3月31日以前に修士課程に入学した学生にあっては、第3条及び第16条第1項の規定に関わらず、なお従前の例による。

別表第1 (第2条第2項関係)

プログラム名	課程	人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的
先端医科学プログラム	修士	医科学の専門知識を習得して医科学研究を実践し、研究成果の発表、研究論文の作成を行った経験を活かし、専門職医療人としてのスキルアップ、専門職企業人として活躍、大学院博士課程へ進学する者を育成することを目的とする。
看護科学プログラム	博士前期	現代社会の多様な要請に応えるために、看護学専門領域における研究や学際的知見の成果を総合的に活用して、保健・医療・福祉の分野で活躍できる高度医療専門職業人又は教育研究者を育成することを目的とする。
	博士後期	豊かで幅広い学識と高度な問題解決能力を有する人材育成を目指し、看護の教育・研究基盤を確立するため、知の統合・創生と実践を改革・開発・創造でき、国内外の生活文化に貢献しうる看護実践現場の問題を見出し、研究的な視点を持って解決がはかれるよう研究力を獲得した実践的研究者を育成する。
先端薬科学プログラム	博士前期	幅広い知識を基盤とする高い専門性と、医学的素養を含む豊かな創造力、人間尊重の精神を基本とする総合的な判断力を培い、薬科学関連領域の研究者・教育者・技術者、及び医薬品の開発や普及を担う専門家として、人々の健康と学術研究の進歩に貢献できる人材を育成することを目的とする。
	博士後期	薬科学領域の広範かつ先端的な知識や高い専門性ととともに、患者の病気や立場を理解できる医学的素養を醸成する。そして、人間尊重の精神を基本とする高い倫理観と、人々の健康と学術研究の進歩という、高度な社会的要請に応えるための創造力、判断力、課題解決力、発信力を兼ね備え、薬科学及び学際的領域で先導的に活躍できる研究者・教育者・技術者・専門家を育成することを目的とする。
生命・臨床医学プログラム	一貫制 博士	疾病の原因の解明及び治療・予防法に関して基礎・臨床の両面から総合的に教育研究を行い、基礎研究のみならず、臨床応用の橋渡しとなるトランスレーショナルリサーチの展開を行える人材を育成する。また、医学／薬学／看護学の連携を理解した世界の医学・医療をリードできる複眼的人材を育成することを目的とする。
臨床薬学プログラム	一貫制 博士	臨床薬学領域の幅広い知識や高い専門性ととともに、疾病を深く理解し患者に寄り添うことのできる医学的素養を教授することで、人間尊重の精神を基本とする高い倫理観と、人々の健康と学術研究の進歩という、高度な社会的要請に応えるための創造力、判断力、課題解決力、発信力を兼ね備え、臨床薬学領域で先導的に活躍できる教育者・研究者・高度職業人・専門家を育成することを目的とする。

別表第2 (第4条関係)

プログラム	分野		
先端医科学プログラム 修士課程	解剖学 システム機能形態学 微生物学 公衆衛生学 分子神経科学 内科学 小児科学 放射線腫瘍学 整形外科学 耳鼻咽喉科学 総合口腔科学 救急医学 医療安全学 リハビリテーション医学 行動生理学	生理学 病理学 薬理学 法医学 臨床心理学・認知神経科学 感染症学 神経精神医学 外科学 産科婦人科学 泌尿器科学 臨床検査医学 脳神経内科学 形成再建外科学・美容外科学 先端医療研究開発学	生化学 免疫学 疫学・健康政策学 医学教育学 遺伝子発現制御学 皮膚科学 放射線医学 脳神経外科学 眼科学 麻酔科学 和漢診療学 臨床腫瘍学 医療AI・データ科学 医療統計学
生命・臨床医学プログラム 一貫制博士課程	解剖学・神経科学 システム機能形態学 分子免疫学 疫学・健康政策学 医学教育学 臨床心理学・認知神経科学 循環器・腎臓内科学 皮膚科学 放射線診断治療学 消化器・腫瘍・総合外科学 産科婦人科学 腎泌尿器科学 臨床分子病態検査学 血液内科学 医療安全学 リハビリテーション医学 行動生理学	統合神経科学 病理診断学 微生物学 公衆衛生学 システム情動科学 遺伝子発現制御学 消化器内科学 小児発達医学 放射線腫瘍学 脳神経外科学 眼科学 麻酔・周術期管理学 和漢診療学 脳神経内科学 形成再建外科学・美容外科学 先端医療研究開発学	分子脳科学 分子神経病態学 分子医科薬理学 法医学 分子神経科学 代謝・免疫・呼吸器病学 感染症学 神経精神医学 循環・呼吸器・総合外科学 整形外科・運動器病学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 総合口腔科学 救急医学 臨床腫瘍学 計算創薬・数理医学 医療統計学
看護科学プログラム 博士前期課程	基礎看護学 母性看護学 地域看護学	成人看護学 老年看護学 人間科学	小児看護学 精神看護学 行動科学
看護科学プログラム 博士後期課程	基礎看護科学	臨床・生体機能看護科学	地域ケアシステム看護科学
先端薬科学プログラム 博士前期課程 博士後期課程  臨床薬学プログラム 一貫制博士課程	薬剤学 がん細胞生物学 分子神経生物学 薬用生物資源学 構造生物学 植物機能科学 薬物治療学 臨床薬剤学 ゲノム機能解析 神経機能学 未病学	応用薬理学 薬化学 遺伝情報制御学 分子合成化学 薬物生理学 病態制御薬理学 実践薬学 製剤設計学 資源科学 生体防御学 漢方診断学	生体認識化学 薬品製造学 分子細胞機能学 生体界面化学 医療薬学 医薬品安全性学 臨床薬品作用学 生物学 天然物創薬学 複雑系解析学

別表第3-1 (第5条第2項関係)

修士課程・博士前期課程

科目区分		授業科目	開設 単位	備考
研究科共通科目		総合医薬学 臨床研究の計画法 解剖生理病態学序論 解剖生理病態学特論 病態薬理学序論 病態薬理学特論 心身健康科学 日本語・日本文化	1 1 1 1 1 1 1 4	留学生
先端医科学プログラム科目	プログラム専門科目	基礎臨床医科学概論 社会医学序論 社会医学特論 生体防御医学序論 生体防御医学特論 分子ゲノム医科学序論 分子ゲノム医科学特論 中枢神経遺伝子工学序論 細胞内シグナル伝達系序論 中枢神経薬理学序論 臨床行動科学序論 臨床行動科学特論 病態検査医学特論 放射線医学特論 感覚・運動・脳病態学序論 感覚・運動・脳病態学特論 東洋医学序論 東洋医学特論 高度先進医療実践学序論 高度先進医療実践学特論 救急蘇生学特論 災害危機管理学特論 先端医科学特別研究	1 10	
看護科学プログラム科目	プログラム共通科目	A群共通科目 看護研究 看護倫理 コンサルテーション論 看護管理論 看護教育論 看護理論 看護政策論	2 2 2 2 2 2 2	
看護科学プログラム科目	プログラム共通科目	B群共通科目 病態生理学 臨床薬理学 フィジカルアセスメント 臨床推論Ⅰ 救急看護演習 健康生活のための統計分析	2 2 2 2 1 1	
	研究者コース	看護ケアサイエンス学 看護ケアサイエンス学特論Ⅰ 看護ケアサイエンス学特論Ⅱ 看護ケアサイエンス学演習Ⅰ 看護ケアサイエンス学演習Ⅱ 看護ケアサイエンス学特別研究 成人看護学特論	2 2 4 4 8 2	

		母子看護学	母性看護学特論Ⅰ 母性看護学特論Ⅱ 小児看護学特論Ⅰ 小児看護学特論Ⅱ 母子看護学演習 母子看護学特別研究	2 2 2 2 4 8	
		地域看護学	地域看護学特論Ⅰ 地域看護学特論Ⅱ 地域看護学演習Ⅰ 地域看護学演習Ⅱ 地域看護学特別研究	2 2 4 4 8	
	CNSコース	がん看護学分野がん看護	がん看護学特論Ⅰ(病態生理) がん看護学特論Ⅱ(援助論) がん看護学特論Ⅲ(がんリハビリテーション看護論) がん看護実践演習Ⅰ(診断～手術後までの患者のリハビリテーション) がん看護実践演習Ⅱ(薬物療法・放射線療法をうける患者のリハビリテーション) がん看護実践演習Ⅲ(緩和ケア・在宅療養中の患者のリハビリテーション) がん看護学実習Ⅰ がん看護学実習Ⅱ がん看護実践特別研究	2 2 2 2 2 2 6 4 8	
		母子看護学分野母性看護	母性看護学特論Ⅲ 周産期看護実践演習Ⅰ 周産期看護実践演習Ⅱ 周産期看護実践演習Ⅲ 周産期看護実践演習Ⅳ 周産期看護実習Ⅰ 周産期看護実習Ⅱ 周産期看護実習Ⅲ	2 2 2 2 2 4 4 2	
看護科学プログラム科目	NPコース	NP基礎科目	臨床推論Ⅱ フィジカルアセスメント特論 疾病・臨床病態概論 アドバンスプラクティス基礎特論 アドバンスプラクティス基礎実習Ⅰ アドバンスプラクティス基礎実習Ⅱ 医療安全学	2 2 4 2 1 1 1	
		NP専門科目	アドバンスプラクティス特論Ⅰ アドバンスプラクティス特論Ⅱ アドバンスプラクティス特論Ⅲ アドバンスプラクティス演習Ⅰ アドバンスプラクティス演習Ⅱ アドバンスプラクティス演習Ⅲ アドバンスプラクティス実習Ⅰ アドバンスプラクティス実習Ⅱ アドバンスプラクティス実習Ⅲ アドバンスプラクティス総合実習 アドバンスプラクティス実践課題研究	6 4 1 3 1 1 6 3 1 6 3	





先端薬科学プログラム科目	プログラム専門科目 (演習・特別研究)	薬剤学演習	2	
		応用薬理学演習	2	
		生体認識化学演習	2	
		がん細胞生物学演習	2	
		薬化学演習	2	
		薬品製造学演習	2	
		分子神経生物学演習	2	
		遺伝情報制御学演習	2	
		分子細胞機能学演習	2	
		薬用生物資源学演習	2	
		分子合成化学演習	2	
		生体界面化学演習	2	
		構造生物学演習	2	
		薬物生理学演習	2	
		医療薬学演習	2	
		植物機能科学演習	2	
		病態制御薬理学演習	2	
		医薬品安全性学演習	2	
		薬物治療学演習	2	
		実践薬学演習	2	
		臨床薬品作用学演習	2	
		臨床薬剤学演習	2	
		製剤設計学演習	2	
		資源科学演習	2	
		天然物創薬学演習	2	
		神経機能学演習	2	
		生体防御学演習	2	
		複雑系解析学演習	2	
		未病学演習	2	
		漢方診断学演習	2	
生物学演習	2			
ゲノム機能解析演習	2			
薬科学特別研究	10			

## 別表第3-2 (第5条第2項関係)

## 一貫制博士課程・博士後期課程

科目区分	授業科目	開設 単位	備考
研究科 共通科目	医薬学プロフェッショナル研究論	1	留学生
	医療制度と医療経営特論	1	
	日本語・日本文化	4	
看護科学 プログラ ム専門科 目	医学連携特論	1	
	看護科学特論	1	
	基礎看護科学分野		
	基礎看護科学特論	2	
	基礎看護科学演習	4	
	臨床・生体機能看護科学分野		
	臨床・生体機能看護科学特論	2	
	臨床・生体機能看護科学演習	4	
	地域ケアシステム看護科学分野		
	地域ケアシステム看護科学特論	2	
	地域ケアシステム看護科学演習	4	
看護科学特別研究	10		
先端薬科 学プロ グラム専 門科 目	先端薬科学特別実習	1	
	薬学連携特論	1	
	先端薬科学インターンシップ	1	
	先端薬科学特別演習	2	
	先端薬科学特別研究	10	

生命・臨床 医学プロ グラム専 門科目	先進医学特論	1	
	医学連携特論	1	
	解剖学・神経科学特論	2	
	統合神経科学特論	2	
	分子脳科学特論	2	
	システム機能形態学特論	2	
	病理診断学特論	2	
	分子神経病態学特論	2	
	分子免疫学特論	2	
	微生物学特論	2	
	分子医科薬理学特論	2	
	疫学・健康政策学特論	2	
	公衆衛生学特論	2	
	法医学特論	2	
	医学教育学特論	2	
	システム情動科学特論	2	
	分子神経科学特論	2	
	臨床心理学・認知神経科学特論	2	
	遺伝子発現制御学特論	2	
	代謝・免疫・呼吸器病学特論	2	
	循環器・腎臓内科学特論	2	
	消化器内科学特論	2	
	感染症学特論	2	
	皮膚科学特論	2	
	小児発達医学特論	2	
	神経精神医学特論	2	
	放射線診断治療学特論	2	
	放射線腫瘍学特論	2	
	循環・呼吸器・総合外科学特論	2	
	呼吸器外科学特論	2	
	消化器・腫瘍・総合外科学特論	2	
	脳神経外科学特論	2	
	整形外科・運動器病学特論	2	
	産科婦人科学特論	2	
	眼科学特論	2	
	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学特論	2	
	腎泌尿器科学特論	2	
	麻酔・周術期管理学特論	2	
	総合口腔科学特論	2	
	臨床分子病態検査学特論	2	
	和漢診療学特論	2	
救急医学特論	2		
血液内科学特論	2		
脳神経内科学特論	2		
臨床腫瘍学特論	2		
医療安全学特論	2		
形成再建外科学・美容外科学特論	2		
計算創薬・数理医学特論	2		
リハビリテーション医学特論	2		
先端医療研究開発学特論	2		
行動生理学特論	2		
高度医学がん治療学特論Ⅰ	1		
高度医学がん治療学特論Ⅱ	1		
高度医学がん治療学特論Ⅲ	1		
高度医学がん治療学特論Ⅳ	1		
高度医学がん治療学特論Ⅴ	1		
高度医学がん治療学特論Ⅵ	1		
生命・臨床医学特論	6		
生命・臨床医学特別実習	2		
生命・臨床医学特別研究	10		

	臨床腫瘍学特論 多職種連携チーム医療学 がん外科学特論 がん緩和医療学特論 臨床病理学特論 がん外科学特論 分子腫瘍学特論 分子生物学入門 臨床統計学特論 次世代北信オンコロジーセミナー がん医療現場の課題特論 がん予防推進特論 新規治療法開発特論	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	がん プロ コース 生
臨床薬学 プログラム 専門科目	高度薬物がん治療学特論Ⅰ 高度薬物がん治療学特論Ⅱ 高度薬物がん治療学特論Ⅲ 高度薬物がん治療学特論Ⅳ 高度薬物がん治療学特論Ⅴ 高度薬物がん治療学特論Ⅵ 高度薬物がん治療学特論Ⅶ 高度薬物がん治療学特論Ⅷ 高度薬物がん治療学特論Ⅷ 薬学連携特論 臨床薬学特論 臨床薬学特別演習 臨床薬学特別実習 臨床薬学インターンシップ 臨床薬学特別研究  分子腫瘍学特論 臨床統計学特論 臨床栄養学特論 先端がん研究特論 がん治療におけるゲノム医療演習 地域包括医療でのがん治療演習 チーム・在宅医療演習 分子生物学入門 腫瘍病理学特論 がん医療現場の課題特論 がん予防推進特論 新規治療法開発特論	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 6 2 1 1 10  1 1 1 1 1 0.5 0.5 1 1 1 1 1	がん プロ コース 生

別表第4-1 (第16条第1項関係) 先端医科学プログラム (修士課程) 修了要件

科目区分	授業科目名	開設 単位	必修・ 選択の別	備考	
大学院 共通科目	研究倫理	1	必修	2 単位以上	
	科学技術と持続可能社会	1	必修		
	地域共生社会特論	1	選択		
	研究者としてのコミュニケーション:基礎と応用	1	選択		
	アート・デザイン思考	1	選択		
	英語論文作成 I	1	選択		
	英語論文作成 II	1	選択		
	データサイエンス特論	1	選択		
	大学院生のためのキャリア形成 知的財産法	1 1	選択 選択		
研究科 共通科目	総合医薬学	1	必修	3 単位以上  ※日本語・日本文化は 外国人留学生に限る。	
	臨床研究の計画法	1	選択		
	解剖生理病態学序論	1	選択		
	解剖生理病態学特論	1	選択		
	病態薬理学序論	1	選択		
	病態薬理学特論	1	選択		
	心身健康科学	1	選択		
	日本語・日本文化	4	自由		
先端 医科学 プログラム	プログラム 専門科目	基礎臨床医科学概論	1	必修	9 単位以上
		社会医学序論	1	必修	
		社会医学特論	1	必修	
		生体防御医学序論	1	選択	
		生体防御医学特論	1	選択	
		分子ゲノム医科学序論	1	選択	
		分子ゲノム医科学特論	1	選択	
		中枢神経遺伝子工学序論	1	選択	
		細胞内シグナル伝達系序論	1	選択	
		中枢神経薬理学序論	1	選択	
		臨床行動科学序論	1	選択	
		臨床行動科学特論	1	選択	
		病態検査医学特論	1	選択	
		放射線医学特論	1	選択	
		感覚・運動・脳病態学序論	1	選択	
		感覚・運動・脳病態学特論	1	選択	
		東洋医学序論	1	選択	
		東洋医学特論	1	選択	
		高度先進医療実践学序論	1	選択	
		高度先進医療実践学特論	1	選択	
		救急蘇生学特論	1	選択	
災害危機管理学特論	1	選択			
先端医科学特別研究	10	必修			
修了要件	次の履修方法により 30 単位以上を修得すること。 ・大学院共通科目から必修 2 単位を含む 4 単位以上 ・研究科共通科目から必修 1 単位を含む 4 単位以上 ・先端医科学プログラムのプログラム専門科目から必修 13 単位を含む 22 単位以上				

別表第4-2-1 (第16条第1項関係) 看護科学プログラム(博士前期課程) 研究者コース 修了要件

科目区分		授業科目名	開設 単位	必修・ 選択の別	備考
大学院 共通科目		研究倫理	1	必修	2単位以上
		科学技術と持続可能社会	1	必修	
		地域共生社会特論	1	選択	
		研究者としてのコミュニケーション:基礎と応用	1	選択	
		アート・デザイン思考	1	選択	
		英語論文作成Ⅰ	1	選択	
		英語論文作成Ⅱ	1	選択	
		データサイエンス特論	1	選択	
		大学院生のためのキャリア形成 知的財産法	1 1	選択 選択	
研究科 共通科目		総合医薬学	1	必修	3単位以上 ※日本語・日本文化は 外国人留学生に限る。
		臨床研究の計画法	1	選択	
		解剖生理病態学序論	1	選択	
		解剖生理病態学特論	1	選択	
		病態薬理学序論	1	選択	
		病態薬理学特論	1	選択	
		心身健康科学	1	選択	
		日本語・日本文化	4	自由	
看護科学プログラム プログラム科目	A群 共通科目	看護研究	2	選択	8単位以上
		コンサルテーション論	2	選択	
		看護管理論	2	選択	
		看護理論	2	選択	
	B群 共通科目	臨床薬理学	2	選択	
		フィジカルアセスメント	2	選択	
		臨床推論Ⅰ	2	選択	
		救急看護演習	1	選択	
		健康生活のための統計分析	1	選択	
		研究者 コース	看護 ケア サイ エ ン ス 学	看護ケアサイエンス学特論Ⅰ	2
	看護ケアサイエンス学特論Ⅱ			2	選択
	看護ケアサイエンス学演習Ⅰ			4	選択
	看護ケアサイエンス学演習Ⅱ			4	選択
	看護ケアサイエンス学特別研究			8	選択
	成人看護学特論			2	選択
	母子 看護 学		母性看護学特論Ⅰ	2	選択
			母性看護学特論Ⅱ	2	選択
			小児看護学特論Ⅰ	2	選択
			小児看護学特論Ⅱ	2	選択
	地域 看護 学	母子看護学演習	4	選択	
母子看護学特別研究		8	選択		
地域看護学特論Ⅰ		2	選択		
地域看護学特論Ⅱ		2	選択		
地域看護学演習Ⅰ		4	選択		
地域看護学演習Ⅱ		4	選択		
地域看護学特別研究	8	選択			
修了要件	次の履修方法により30(母子看護学のみ32)単位以上を修得すること。 ・大学院共通科目から必修2単位を含む3単位以上 ・研究科共通科目から必修1単位を含む4単位以上 ・プログラム共通科目(A群共通科目・B群共通科目)から8単位以上				

	<p>[看護ケアサイエンス学を選択した場合] いずれかの組み合わせを選択し、14 単位修得</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護ケアサイエンス学特論 I, 看護ケアサイエンス学演習 I 及び看護ケアサイエンス学特別研究</li> <li>・看護ケアサイエンス学特論 II, 看護ケアサイエンス学演習 II 及び看護ケアサイエンス学特別研究</li> </ul> <p>[母子看護学を選択した場合] いずれかの組み合わせを選択し、16 単位修得</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・母性看護学特論 I, 母性看護学特論 II, 母子看護学演習及び母子看護学特別研究</li> <li>・小児看護学特論 I, 小児看護学特論 II, 母子看護学演習及び母子看護学特別研究</li> </ul> <p>[地域看護学を選択した場合] いずれかの組み合わせを選択し、14 単位修得</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域看護学特論 I, 地域看護学演習 I 及び地域看護学特別研究</li> <li>・地域看護学特論 II, 地域看護学演習 II 及び地域看護学特別研究</li> </ul>
--	--

別表第4-2-2 (第16条第1項関係) 看護科学プログラム (博士前期課程) CNS コース 修了要件

科目区分		授業科目名	開設 単位	必修・ 選択の別	備考			
大学院 共通科目		研究倫理	1	必修	2 単位以上			
		科学技術と持続可能社会	1	必修				
		地域共生社会特論	1	選択				
		研究者としてのコミュニケーション:基礎と応用	1	選択				
		アート・デザイン思考	1	選択				
		英語論文作成 I	1	選択				
		英語論文作成 II	1	選択				
		データサイエンス特論	1	選択				
		大学院生のためのキャリア形成	1	選択				
		知的財産法	1	選択				
研究科 共通科目		総合医薬学	1	必修	3 単位以上			
		臨床研究の計画法	1	選択				
		解剖生理病態学序論	1	選択				
		解剖生理病態学特論	1	選択				
		病態薬理学序論	1	選択				
		病態薬理学特論	1	選択				
		心身健康科学	1	選択				
		日本語・日本文化	4	自由		※日本語・日本文化は 外国人留学生に限る。		
看護科学 プログラム科目	プログラム 共通科目	A 群 共通科目	看護研究	2	選択	8 単位以上		
			看護倫理	2	選択			
			コンサルテーション論	2	選択			
			看護管理論	2	選択			
			看護教育論	2	選択			
			看護理論	2	選択			
			看護政策論	2	選択			
	B 群 共通科目	病態生理学	2	必修				
		臨床薬理学	2	必修				
		フィジカルアセスメント	2	必修				
		臨床推論 I	2	選択				
		救急看護演習	1	選択				
		健康生活のための統計分析	1	選択				
		研究者 コース	※1	成人看護学特論		2	選択	がん看護 CNS コース必修 ※1 = 看護ケアサイ エンス学
			※2	母性看護学特論 I		2	選択	母性看護 CNS コース必修 ※2 = 母子看護学
母性看護学特論 II	2			選択				
母子看護学特別研究	8			選択				



看護科学プログラム科目	CNSコース	がん看護学特論Ⅰ（病態生理）	2	選択	がん看護 CNSコース必修
		がん看護学特論Ⅱ（援助論）	2	選択	
	がん看護学特論Ⅲ（がんリハビリテーション看護論）	2	選択		
	がん看護実践演習Ⅰ（診断～手術後までの患者のリハビリテーション）	2	選択		
	がん看護実践演習Ⅱ（薬物療法・放射線療法をうける患者のリハビリテーション）	2	選択		
	がん看護実践演習Ⅲ（緩和ケア・在宅療養中の患者のリハビリテーション）	2	選択		
	がん看護学実習Ⅰ	6	選択		
	がん看護学実習Ⅱ	4	選択		
	がん看護実践特別研究	8	選択		
	母子看護学分野がん看護				
	母子看護学分野母性看護	母性看護学特論Ⅲ	2	選択	母性看護CNS コース必修
		周産期看護実践演習Ⅰ	2	選択	
		周産期看護実践演習Ⅱ	2	選択	
		周産期看護実践演習Ⅲ	2	選択	
		周産期看護実践演習Ⅳ	2	選択	
		周産期看護実習Ⅰ	4	選択	
		周産期看護実習Ⅱ	4	選択	
		周産期看護実習Ⅲ	2	選択	
修了要件	<p>次の履修方法により54単位以上を修得すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院共通科目から必修2単位を含む4単位以上</li> <li>・研究科共通科目から必修1単位を含む4単位以上</li> <li>・看護科学プログラムのプログラム共通科目：A群共通科目から8単位以上、B群共通科目から必修6単位</li> </ul> <p>[がん看護CNSコースの場合]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究者コース（看護ケアサイエンス学）の成人看護学特論の2単位及びCNSコース（がん看護学分野がん看護）の全科目30単位</li> </ul> <p>[母性看護CNSコースの場合]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究者コース（母子看護学）の母性看護学特論Ⅰ、母性看護学特論Ⅱ、母子看護学特別研究の12単位及びCNSコースの母子看護学分野母性看護の全科目20単位</li> </ul>				

別表第4-2-3 (第16条第1項関係) 看護科学プログラム(博士前期課程) NPコース 修了要件

科目区分	授業科目名	開設 単位	必修・ 選択の別	備考
大学院 共通科目	研究倫理	1	必修	2単位以上
	科学技術と持続可能社会	1	必修	
	地域共生社会特論	1	選択	
	研究者としてのコミュニケーション:基礎と応用	1	選択	
	アート・デザイン思考	1	選択	
	英語論文作成Ⅰ	1	選択	
	英語論文作成Ⅱ	1	選択	
	データサイエンス特論	1	選択	
	大学院生のためのキャリア形成	1	選択	
	知的財産法	1	選択	
研究科 共通科目	総合医薬学	1	必修	※日本語・日本文化は 外国人留学生に限る。
	臨床研究の計画法	1	選択	
	解剖生理病態学序論	1	必修	
	解剖生理病態学特論	1	必修	
	病態薬理学序論	1	必修	
	病態薬理学特論	1	必修	
	心身健康科学	1	選択	
	日本語・日本文化	4	自由	

看護科学プログラム科目	プログラム共通科目	A 群共通科目	看護研究	2	必修	
		看護倫理	2	必修		
		コンサルテーション論	2	選択		
		看護管理論	2	選択		
		看護理論	2	選択		
		看護政策論	2	必修		
	B 群共通科目	病態生理学	2	必修		
		臨床薬理学	2	必修		
		フィジカルアセスメント	2	必修		
		臨床推論Ⅰ	2	必修		
救急看護演習		1	選択			
健康生活のための統計分析		1	選択			
NP コース	NP 基礎科目	臨床推論Ⅱ	2	必修		
		フィジカルアセスメント特論	2	必修		
		疾病・臨床病態概論	4	必修		
		アドバンスプラクティス基礎特論	2	必修		
		アドバンスプラクティス基礎実習Ⅰ	1	必修		
		アドバンスプラクティス基礎実習Ⅱ	1	必修		
	NP 専門科目	医療安全学	1	必修		
		アドバンスプラクティス特論Ⅰ	6	必修		
		アドバンスプラクティス特論Ⅱ	4	選択		
		アドバンスプラクティス特論Ⅲ	1	選択		
※	アドバンスプラクティス演習Ⅰ	3	必修			
	アドバンスプラクティス演習Ⅱ	1	選択			
	アドバンスプラクティス演習Ⅲ	1	選択			
	アドバンスプラクティス実習Ⅰ	6	必修			
	アドバンスプラクティス実習Ⅱ	3	選択			
	アドバンスプラクティス実習Ⅲ	1	選択			
アドバンスプラクティス総合実習	6	必修				
アドバンスプラクティス実践課題研究	3	必修				
		プライマリ・ケア特論	2	選択	※NP特別科目	
		クリティカル・ケア特論	2	選択		
修了要件	<p>次の履修方法により、NP 急性期領域の場合は 70 単位以上、NP 慢性期領域の場合は 65 単位以上を修得すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院共通科目から必修 2 単位を含む 4 単位以上</li> <li>・研究科共通科目から必修 5 単位</li> <li>・プログラム共通科目（A 群共通科目及び B 群共通科目）から必修 14 単位</li> <li>・NP コースの NP 基礎科目の全科目 13 単位</li> <li>・NP コースの NP 専門科目のアドバンスプラクティス特論Ⅰ、アドバンスプラクティス演習Ⅰ、アドバンスプラクティス実習Ⅰ、アドバンスプラクティス総合実習及びアドバンスプラクティス実践課題研究の 24 単位</li> </ul> <p>〔NP 急性期領域の場合〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・NP コースの NP 専門科目のアドバンスプラクティス特論Ⅱ、アドバンスプラクティス演習Ⅱ、アドバンスプラクティス実習Ⅱの 8 単位を必修</li> <li>・NP コースの NP 特別科目のクリティカル・ケア特論の 2 単位を必修</li> </ul> <p>〔NP 慢性期領域の場合〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・NP コースの NP 専門科目のアドバンスプラクティス特論Ⅲ、アドバンスプラクティス演習Ⅲ、アドバンスプラクティス実習Ⅲの 3 単位を必修</li> <li>・NP コースの NP 特別科目のプライマリ・ケア特論 2 単位を必修</li> </ul>					

別表第4-3 (第16条第1項関係) 先端薬科学プログラム (博士前期課程) 修了要件

科目区分	授業科目名	開設 単位	必修・ 選択の別	備考	
大学院 共通科目	研究倫理	1	必修	2単位 選択	
	科学技術と持続可能社会	1	必修		
	地域共生社会特論	1	選択		
	研究者としてのコミュニケーション:基礎と応用	1	選択		
	アート・デザイン思考	1	選択		
	英語論文作成 I	1	選択		
	英語論文作成 II	1	選択		
	データサイエンス特論	1	選択		
	大学院生のためのキャリア形成 知的財産法	1 1	選択 選択		
研究科 共通科目	総合医薬学	1	必修	3単位 選択 ※日本語・日本文化は外国人留學生に限る。	
	臨床研究の計画法	1	選択		
	解剖生理病態学序論	1	選択		
	解剖生理病態学特論	1	選択		
	病態薬理学序論	1	選択		
	病態薬理学特論	1	選択		
	心身健康科学 日本語・日本文化	1 4	選択 自由		
プログラム 専門科目 (序論)	薬学経済序論	1	必修	3単位 選択	選択科目 から 2単位 以上
	分子化学序論	1	選択		
	生物物理学序論	1	選択		
	薬理薬剤学序論	1	選択		
	分子細胞生物学序論	1	選択		
	応用天然物化学序論 応用和漢医薬学序論	1 1	選択 選択		
プログラム 専門科目 (特論)	分子化学特論	1	選択	4単位 選択	
	分子設計学特論	1	選択		
	生物物理学特論	1	選択		
	薬理学特論	1	選択		
	薬物動態学特論	1	選択		
	分子生理学特論	1	選択		
	遺伝子応用分析学特論	1	選択		
	分子細胞生物学特論	1	選択		
	応用天然物化学特論 先端薬科学海外特論	1 4	選択 選択		
プログラム 専門科目 (演習・特別 研究)	薬剤学演習	2	選択	2単位 選択	
	応用薬理学演習	2	選択		
	生体認識化学演習	2	選択		
	がん細胞生物学演習	2	選択		
	薬化学演習	2	選択		
	薬品製造学演習	2	選択		
	分子神経生物学演習	2	選択		
	遺伝情報制御学演習	2	選択		
	分子細胞機能学演習	2	選択		
	薬用生物資源学演習	2	選択		
	分子合成化学演習	2	選択		
	生体界面化学演習	2	選択		
	構造生物学演習	2	選択		
	薬物生理学演習	2	選択		
	医療薬学演習	2	選択		
	植物機能科学演習	2	選択		
	病態制御薬理学演習	2	選択		
	医薬品安全性学演習	2	選択		
	薬物治療学演習	2	選択		
	実践薬学演習	2	選択		
	臨床薬品作用学演習	2	選択		
	臨床薬剤学演習	2	選択		
	製剤設計学演習	2	選択		
資源科学演習	2	選択			
天然物創薬学演習	2	選択			
神経機能学演習	2	選択			
生体防御学演習	2	選択			

	複雑系解析学演習 未病学演習 漢方診断学演習 生物学演習 ゲノム機能解析演習 薬科学特別研究	2 2 2 2 2 10	選択 選択 選択 選択 選択 必修	}
修了要件	次の履修方法により 30 単位以上を修得すること。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院共通科目から必修 2 単位を含む 4 単位</li> <li>・研究科共通科目から必修 1 単位を含む 4 単位</li> <li>・プログラム専門科目（序論）から必修 1 単位を含む 4 単位以上</li> <li>・プログラム専門科目（特論）から 4 単位以上</li> <li>・大学院共通科目，研究科共通科目，プログラム専門科目（序論）及びプログラム専門科目（特論）から 2 単位以上</li> <li>・プログラム専門科目（実習・演習）から必修 10 単位を含む 12 単位</li> </ul>			

別表第4-4 (第16条第5項関係) 看護科学プログラム (博士後期課程) 修了要件

科目区分	授業科目名	開設 単位	必修・ 選択の別	備考
大学院 共通科目	学際融合発表演習Ⅰ	1	必修	1 単位選択 修士課程又は博士 前期課程において 単位未修得の 科目に限る。
	学際融合発表演習Ⅱ	1	必修	
	研究倫理	1	選択	
	科学技術と持続可能社会	1	選択	
	地域共生社会特論	1	選択	
	研究者としてのコミュニケーション:基礎と応用	1	選択	
	アート・デザイン思考	1	選択	
	英語論文作成Ⅰ	1	選択	
	英語論文作成Ⅱ	1	選択	
	データサイエンス特論	1	選択	
	大学院生のためのキャリア形成 知的財産法	1 1	選択 選択	
研究科 共通科目	医薬学プロフェッショナル研究論	1	必修	※日本語・日本文化は 外国人留学生に限る。
	医療制度と医療経営特論	1	必修	
	日本語・日本文化	4	自由	
看護科学 プログラム 専門科目	医学連携特論	1	選択	1 単位 選択
	看護科学特論	1	選択	
	基礎看護科学分野			6 単位選択 所属分野の 特論及び演習
	基礎看護科学特論	2	選択	
	基礎看護科学演習	4	選択	
	臨床・生体機能看護科学分野			
	臨床・生体機能看護科学特論	2	選択	
	臨床・生体機能看護科学演習	4	選択	
	地域ケアシステム看護科学分野			
	地域ケアシステム看護科学特論	2	選択	
地域ケアシステム看護科学演習	4	選択		
看護科学特別研究	10	必修		
修了要件	<p>次の履修方法により 22 単位以上を修得すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院共通科目から必修科目 2 単位を含む 3 単位以上 (修士課程又は博士前期課程において単位修得済みの科目は除く。)</li> <li>・総合医薬学研究科共通科目から必修科目 2 単位</li> <li>・看護科学プログラム専門科目から必修科目 10 単位及び看護科学プログラム専門科目の選択科目から選択した分野の特論科目 2 単位及び演習科目 4 単位を含む 17 単位以上</li> </ul>			

別表第4-5 (第16条第5項関係) 先端薬科学プログラム (博士後期課程) 修了要件

科目区分	授業科目名	開設 単位	必修・ 選択の別	備考
大学院 共通科目	学際融合発表演習Ⅰ	1	必修	
	学際融合発表演習Ⅱ	1	必修	
研究科 共通科目	医薬学プロフェッショナル研究論	1	必修	※日本語・日本文化は 外国人留学生に限る。
	医療制度と医療経営特論	1	必修	
	日本語・日本文化	4	自由	
先端薬科学 プログラム 専門科目	先端薬科学特別実習	1	選択	
	薬学連携特論	1	必修	
	先端薬科学インターンシップ	1	選択	
	先端薬科学特別演習	2	必修	
	先端薬科学特別研究	10	必修	
修了要件	<p>次の履修方法により 18 単位以上を修得すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院共通科目から必修科目 2 単位</li> <li>・総合医薬学研究科共通科目から必修科目 2 単位</li> <li>・先端薬科学プログラム専門科目から必修科目 13 単位</li> <li>・先端薬科学プログラム専門科目の選択科目及び博士前期課程先端薬科学プログラムのプログラム専門科目 (序論及び特論) (ただし修士課程又は博士前期課程において単位未修得の科目に限る。) から 1 単位以上</li> </ul>			

別表第4-6 (第16条第6項関係) 生命・臨床医学プログラム (一貫制博士課程) 修了要件

科目区分	授業科目名	開設 単位	必修・ 選択の別	備考
大学院 共通科目	学際融合発表演習Ⅰ	1	必修	
	学際融合発表演習Ⅱ	1	必修	
	研究倫理	1	必修	
	科学技術と持続可能社会	1	必修	
	地域共生社会特論	1	選択	
	研究者としてのコミュニケーション:基礎と応用	1	選択	
	アート・デザイン思考	1	選択	
	英語論文作成Ⅰ	1	選択	
	英語論文作成Ⅱ	1	選択	
	データサイエンス特論	1	選択	
	大学院生のためのキャリア形成 知的財産法	1 1	選択 選択	
研究科 共通科目	医薬学プロフェッショナル研究論	1	必修	
	医療制度と医療経営特論	1	必修	
	日本語・日本文化	4	自由	※日本語・日本文化は 外国人留学生に限る。
生命・臨床 医学 プログラム 専門科目	先進医学特論	1	選択	
	医学連携特論	1	選択	
	解剖学・神経科学特論	2	選択	
	統合神経科学特論	2	選択	
	分子脳科学特論	2	選択	
	システム機能形態学特論	2	選択	
	病理診断学特論	2	選択	
	分子神経病態学特論	2	選択	
	免疫学特論	2	選択	
	微生物学特論	2	選択	
	分子医薬薬理学特論	2	選択	
	疫学・健康政策学特論	2	選択	
	公衆衛生学特論	2	選択	
	法医学特論	2	選択	
	医学教育学特論	2	選択	
	システム情動科学特論	2	選択	
	分子神経科学特論	2	選択	
	臨床心理学・認知神経科学特論	2	選択	
	遺伝子発現制御学特論	2	選択	
	代謝・免疫・呼吸器病学特論	2	選択	
	循環器・腎臓内科学特論	2	選択	
	消化器内科学特論	2	選択	
	感染症学特論	2	選択	
	皮膚科学特論	2	選択	
	小児発達医学特論	2	選択	
	神経精神医学特論	2	選択	
	放射線診断治療学特論	2	選択	
	放射線腫瘍学特論	2	選択	
	循環・呼吸器・総合外科学特論	2	選択	
	呼吸器外科学特論	2	選択	
	消化器・腫瘍・総合外科学特論	2	選択	
	脳神経外科学特論	2	選択	
	整形外科・運動器病学特論	2	選択	
	産科婦人科学特論	2	選択	
	眼科学特論	2	選択	
	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学特論	2	選択	
	腎泌尿器科学特論	2	選択	
	麻酔・周術期管理学特論	2	選択	
	総合口腔科学特論	2	選択	
	臨床分子病態検査学特論	2	選択	
	和漢診療学特論	2	選択	
	救急医学特論	2	選択	
血液内科学特論	2	選択		
脳神経内科学特論	2	選択		
臨床腫瘍学特論	2	選択		
医療安全学特論	2	選択		
形成再建外科学・美容外科学特論	2	選択		

	計算創薬・数理医学特論	2	選択	
	リハビリテーション医学特論	2	選択	
	先端医療研究開発学特論	2	選択	
	行動生理学特論	2	選択	
	高度医学がん治療学特論Ⅰ*	1	選択	
	高度医学がん治療学特論Ⅱ*	1	選択	
	高度医学がん治療学特論Ⅲ*	1	選択	
	高度医学がん治療学特論Ⅳ*	1	選択	
	高度医学がん治療学特論Ⅴ*	1	選択	
	高度医学がん治療学特論Ⅵ*	1	選択	
	生命・臨床医学特論	6	必修	
	生命・臨床医学特別実習	2	必修	
	生命・臨床医学特別研究	10	必修	
修了要件	次の履修方法により30単位以上を修得すること。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院共通科目から必修科目4単位</li> <li>・総合医薬学研究科共通科目から必修科目2単位</li> <li>・生命・臨床医学プログラム専門科目から必修科目18単位を含む22単位以上</li> <li>・大学院共通科目及び生命・臨床医学プログラム専門科目の選択科目から2単位以上</li> </ul>			

\*全国がんプロオンライン教育科目

別表第4-7 (第16条第6項関係) 臨床薬学プログラム (一貫制博士課程) 修了要件

科目区分	授業科目名	開設 単位	必修・ 選択の別	備考
大学院 共通科目	学際融合発表演習Ⅰ	1	必修	
	学際融合発表演習Ⅱ	1	必修	
	研究倫理	1	必修	
	科学技術と持続可能社会	1	必修	
	地域共生社会特論	1	選択	
	研究者としてのコミュニケーション:基礎と応用	1	選択	
	アート・デザイン思考	1	選択	
	英語論文作成Ⅰ	1	選択	
	英語論文作成Ⅱ	1	選択	
	データサイエンス特論	1	選択	
	大学院生のためのキャリア形成	1	選択	
知的財産法	1	選択		
研究科 共通科目	医薬学プロフェッショナル研究論	1	必修	
	医療制度と医療経営特論	1	必修	
	日本語・日本文化	4	自由	※日本語・日本文化は 外国人留学生に限る。
臨床薬学 プログラム 専門科目	高度薬物がん治療学特論Ⅰ*	1	選択	
	高度薬物がん治療学特論Ⅱ*	1	選択	
	高度薬物がん治療学特論Ⅲ*	1	選択	
	高度薬物がん治療学特論Ⅳ*	1	選択	
	高度薬物がん治療学特論Ⅴ*	1	選択	
	高度薬物がん治療学特論Ⅵ*	1	選択	
	高度薬物がん治療学特論Ⅶ*	1	選択	
	高度薬物がん治療学特論Ⅷ*	1	選択	
	薬学連携特論	1	必修	
	臨床薬学特論	6	必修	
	臨床薬学特別演習	2	必修	
	臨床薬学特別実習	1	選択	
	臨床薬学インターンシップ	1	選択	
臨床薬学特別研究	10	必修		
修了要件	次の履修方法により30単位以上を修得すること。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院共通科目から必修科目4単位</li> <li>・総合医薬学研究科共通科目から必修科目2単位</li> <li>・臨床薬学プログラム専門科目から必修科目19単位</li> <li>・大学院共通科目、臨床薬学プログラム専門科目の選択科目及び博士前期課程先端薬科学プログラムのプログラム専門科目 (序論及び特論) から5単位以上</li> </ul>			

\*全国がんプロオンライン教育科目

別表第4-8 (第16条第9項関係) 生命・臨床医学プログラム (一貫制博士課程)

次世代のがんプロフェッショナル養成プラン「がん患者チーム医療修得コース」及び「腫瘍循環器学コース」 修了要件

科目区分	授業科目名	開設 単位	必修・ 選択の別	備考
生命・臨床 医学 プログラム 専門科目	臨床腫瘍学特論 *	1	必修	
	多職種連携チーム医療学 *	1	必修	
	がん緩和医療学特論 *	1	選択	
	臨床病理学特論 *	1	選択	
	がん外科学特論 *	1	選択	
	分子腫瘍学特論 *	1	選択	
	分子生物学入門 *	1	選択	
	臨床統計学特論 *	1	選択	
	次世代北信がんプロオンコロジーセミナー	1	選択	
	がん医療現場の課題特論 *	1	選択	
	がん予防推進特論 *	1	選択	
	新規治療法開発特論 *	1	選択	
	高度医学がん治療学特論Ⅰ *	1	選択	
	高度医学がん治療学特論Ⅱ *	1	選択	
	高度医学がん治療学特論Ⅲ *	1	選択	
	高度医学がん治療学特論Ⅳ *	1	選択	
	高度医学がん治療学特論Ⅴ *	1	選択	
	高度医学がん治療学特論Ⅵ *	1	選択	
生命・臨床医学プログラム専門科目における がんに関わる科目	各2	選択		
修了要件	次の履修方法により 36~42 単位以上を修得すること (a+b+c) a: 別表第4-6 (第16条第6項関係) における修了要件: 30 単位以上 b: 必修科目 2 単位 c: 選択科目 4~10 単位以上 (一貫制博士課程生命・臨床医学プログラムの修了要件 (a) として修得した 「高度医学がん治療学特論Ⅰ~Ⅵ」) 及びがんに関わる科目の単位数による)			

\*全国がんプロオンライン教育科目

別表第4-9 (第16条第10項関係) 臨床薬学プログラム (一貫制博士課程)

次世代のがんプロフェッショナル養成プラン

「がん治療において地域医療に貢献できる薬剤師および新規がん治療薬開発研究者養成コース」 修了要件

科目区分	授業科目名	開設 単位	必修・ 選択の別	備考
臨床薬学 プログラム 専門科目	分子腫瘍学特論 *	1	必修	
	臨床統計学特論 *	1	必修	
	臨床栄養学特論 *	1	必修	
	先端がん研究特論 *	1	必修	
	がん治療におけるゲノム医療演習	1	必修	
	地域包括医療でのがん治療演習	0.5	必修	
	チーム・在宅医療演習	0.5	必修	
	分子生物学入門 *	1	選択	
	腫瘍病理学特論 *	1	選択	
	がん医療現場の課題特論*	1	選択	
	がん予防推進特論 *	1	選択	
	新規治療法開発特論 *	1	選択	
	高度薬物がん治療学特論Ⅰ *	1	選択	
	高度薬物がん治療学特論Ⅱ *	1	選択	
	高度薬物がん治療学特論Ⅲ *	1	選択	
	高度薬物がん治療学特論Ⅳ *	1	選択	
	高度薬物がん治療学特論Ⅴ *	1	選択	
	高度薬物がん治療学特論Ⅵ *	1	選択	
	高度薬物がん治療学特論Ⅶ *	1	選択	
	高度薬物がん治療学特論Ⅷ *	1	選択	
修了要件	次の履修方法により 36~41 単位以上を修得すること (a+b+c) a: 別表第4-7 (第16条第6項関係) における修了要件: 30 単位以上 b: 必修科目 6 単位 c: 選択科目 0~5 単位以上 (一貫制博士課程臨床薬学プログラムの修了要件 (a) として修得した「高度薬 物がん治療学特論Ⅰ~Ⅷ」) の単位数による)			

\*全国がんプロオンライン教育科目